

令和3年度調査検討計画

処理場及びマンホールにおける調査について

今回説明、次回中間報告

1. 処理場及びマンホールのモニタリング
2. 分析方法について
3. 流行期における測定頻度の変更（短期集中調査について）

次回説明

4. 採水最適時間の設定（処理場流入水24時間調査）
5. 下水処理場における挙動調査
6. 海外事例調査
7. 保健衛生部局へのヒアリング等について

令和3年度調査検討計画

処理場及びマンホールにおける調査について

調査目的

- 下水処理場流入水のコロナウイルス濃度が定量的に把握できている検体が僅かであるとともに、モデル処理場の処理区内の感染者数等についても詳細な情報を収集できていないため、現状では、市中感染状況と下水中のコロナウイルス濃度の明確な相関が見られない。
- このため、引き続き、両者の関係を調べるため、今年度は下水処理場への流入水に加え、新型コロナウイルスがより高濃度で検出される可能性がある軽症者療養宿泊施設等の近傍マンホール等での下水の採水・分析も実施。
(マンホールから採水した下水中のコロナウイルス濃度と宿泊施設における軽症者療養者数との関係を調査)

調査概要

- ◆ 国内6自治体を対象に、下水を採取し新型コロナウイルス濃度の調査を実施する。
- ◆ 対象処理場・マンホール : 6自治体×1処理場、6自治体×2か所(マンホール)
- ◆ 頻度 : 1回/週
- ◆ サンプルング方法 : グラブ(スポット)サンプルング
(内1自治体ではコンポジット採水)